

会社経営の目的は
パートナーと、お客様の幸せな理想づくり。

どう働くのか？

いかに経営するのか？

どんな社会を目指すのか？

利益も成長も、会社の目的ではありません。

会社経営の目的は、

パートナーの幸せな理想づくりです。

年輪のように確かな安定成長による永続こそ、

会社をとりまくすべての人を幸せにします。

働く、それだけありがたい

生きていることへの感謝、
健康であることの喜び、
働くことのありがたさ。
いまでも
心から感じ続けていることです。

「年輪経営」

会社は、永続することが最大の価値です。
経営にゴールはないのですから、
急がずに、景気が良くても悪くても、
前年より少しだけ成長する。
自然の摂理にならって、
だんだんと良くなっていく末広がりの年輪経営は、
社員にこの上ない安心感をもたらします。

凡事継続の工夫

平凡なことを意識的に続ける。
ダラダラと続けても成果は見込めません。
その活動に取り組む目的を理解させ、みんなで共有
して、
「どうやったら楽しいだろうか。
気持ち良くやるにはどうしたらいいだろうか」と考え
る。
工夫を重ねることで、
続けることが容易になり、
成果もついてくるものです。

判断の基準は 善か悪か

経営者が決断を下す時には、損得だけではなく、
それが社員のため、
世の中のためになるかどうかという、
「善か悪か」の基準で判断するべきだと思います。

目的と手段をはき違えない

経営の目的は、働く社員の幸せを通して世の中を良くすることです。利益はそのための手段であって、目的そのものではありません。目的と手段をはき違えないで、しっかりと見極めることが大切だと思います。

利益は社員の幸せ のために使う

利益とは、それ自体に価値があるものではなく
「どう使うか」によって価値が生まれます。
わたしは社員の幸せを通じて
社会に貢献するという考え方のもと、
未来への種まき、快適な職場づくり、
地域貢献のために投資してきました。
経営者にとって、利益をどう使うかは、
会社の存在意義が問われる
重要な課題であると思います。

最高の幸せは 忘己利他にあり

人はみな、幸せを求めて生きています。
最高の幸せのかたちは、利他の幸せです。
自分のことだけではなく、人の役にも立つこと、
人に喜んでもらえることをする。
「何をしたら喜んでくれるのか」と
いつも考えて行動する。
忘己利他の幸せを学びたい。

幸せに向かう進歩軸と、 トレンド軸をいつも意識して

毎日を快適で幸せに暮らせる社会に向かう進歩軸。
世の中で日々生まれている
振り子のように変化するトレンド軸。
トレンド軸を意識しながら、
変わることのない進歩軸に沿って歩むことが、
経営上手。

会社経営の基本は「ファンづくり」

良い商品を作ることはもちろん、
お客様をはじめ、
仕入れ先 地域の人々や
社員を大切にすること
さらには将来の世の中にも配慮して、
真に豊かな社会のために
文化・芸術・スポーツ活動にも
取り組みながら
ファンを増やしていく。
ファンづくりこそ経営の柱です。

ブランドとは 社会からの尊敬度

会社を評価する目安として、
社員数や売上高などの「大きさ」を誇る
時代ではないことを確信したいものです。
規模や知名度ではなく、
日常会話の中で、
「あの会社はすごいね。いい会社だね」と
尊敬されること。
尊敬されるような存在感こそブランドです。

会社のイメージを上げる

目先の利益にとらわれることなく、
時間をかけて、プレることなく
社員のため、社会のための経営を貫く。
そのことによって会社のイメージは上がり、
売上や利益は自然ともたらされていきます。

真の生産性向上は、 モチベーションアップ

人間はほんとうにやる気になったとき、
そうでない人間の何倍も進んで働くものです。
最高の生産性向上策は、
社員のモチベーションアップです。
給与や待遇、福利厚生に力を入れ、
社員の健康への心配りを厚くする。
末広がりに年々良くなっていく、
楽しくて快適な職場をつくれば、
人のやる気はおのずと高まっていきます。

遠くをはかる経営を

会社が拡大すると多くのステークホルダーの目にさらされます。
ステークホルダーは会社の成長と共に価値が上がる
ことを期待するものです。
しかし、短期間でステークホルダーの期待に応えようとすると、
目先の利益だけを追う急成長至上の
経営となってしまいます。
社員へのノルマはきつくなり、
資源や環境への心配りがなくなります。
正しく末永く株主に報いるためにも
遠くをはかりながら、時間をかけた安定成長と、
すべてに思いやりをもった
思慮深い経営をしたいものです。

どんな仕事でも天職だと信じる

目の前の仕事を、
とことん掘り下げてみましょう。
何が自分に向くのかは
案外わからないものです。
与えられた仕事を
天職と見定めて、
一生懸命に努めることが
大切だと思います。
道はおのずと拓けていきます。

可能性を 次の世代へつなぐ

100年先の会社の将来を考え、研究開発に力を入れ、
さまざまな分野で可能性のある種まきをして、
芽が出てくるのを待つような状態で、
次の世代へ手渡してあげる。
これが経営者のつとめだと思います。

人件費は経営の目的

経営をしている意味がありません。
支払われた報酬は消費を生み、
消費は世の中全体を活性化させます。
その消費は、
巡りめぐって自社の発展にも
つながってゆくものです。
人件費は会社経営の目的そのものです。

16

利他の 積み重ねが運を呼ぶ

目「運」というものは、誰にも同じように天から降ってきています。しかし運をつかめるか、つかめないかは、その人の考え方と行動で決まります。日頃から、誰かの役に立とうという利他の心をもち、それを積極的に行動に移すことが大切です。利他の行動を積み重ねる人は、自然と運をつかむことができるのだと思います。

一枚岩になるまで伝え続ける

会社の目的は、「みんながより幸せになること」です。向かう目的を社員みんなで完全に共有することは、会社経営の基本です。会社の目的や理念・方針を周知徹底させるためには、表現や例え話を工夫しながら、50回、60回と繰り返し伝えることです。折に触れて、フレることなく伝え続けることです。社員の結束力が高まれば、1+1は3にもうにも10にもなります。みんなが一枚岩になれば、計り知れないパワーが生まれます。



人間として成長する 社員の総和が会社の真の成長

売上や利益が増えても、
社員の幸福度が下がっていたら、
会社が成長したとはいません。
たとえ売上が同じでも、給与や待遇が向上し、
職場環境が快適になり、
社員のモチベーションが上がり、
外部の人から「あの会社は良くなっているね」と
評価されることが大切です。
一人一人の社員の人の成長の総和が、
会社の真の成長と
いえるのではないでしょうか。

改善とは快適さを 追求していくこと

安全で快適な環境をつくるための
社員の提案を大切に。
職場は一日の中で
多くの時間を過ごす場であり、
家庭と共に、人生の大切な舞台です。
職場も人生の一部です。
快適な職場をつくれば、
社員の人生の質は高まり、
社員のモチベーションは上がります。
結果として、生産性の向上や
コストダウンにもつながるのだと思います。

研究開発により、 遠くをはかる種まきを

会社経営は、常に遠くをはかりながら、
一歩一歩確実に進めていきたいものです。
長期的な経営戦略に必要なのは、
時代を読み、時代を先取りする種まきです。
世の中の価値観の変化を読み取りながら、
研究開発による種まきを続けていきましょう。

「三方よし」から 将来も良い「四方よし」に

「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方よし。
さらに「将来もよし」を加えて
四方よしを目指す。
会社の未来を考え、
世の中の変化や環境問題にも配慮して、
将来にわたっても良いという
時間軸を加えたい。

誰にもまさる仕事への 情熱をもとう

社員を束ねる者として、
専門知識は担当の部下より
劣ることはあっても、
仕事に対する燃えるような情熱と
「いい会社」にするための日常の努力、
時代の変化を学ぶ姿勢は、
会社の誰にもまさっていることが、
経営者として大切だと思います。

気づきの能力を養う 意識のスポットライトの数

仕事上のかかわりをもつ人々が、次に何を思い、望み、行うのかということ
をいつもイメージしましょう。先のことや自分以外の人のことを思いやつ
て、「次に何が起こるか」をいつもシミュレーションしてみましょう。そうやつ
て意識のスポットライトの数を増やしていると、ものごとを多面的にあらゆ
る方向から見る力ができます。気づきの能力を養うことができます。

優秀とは優しさに秀であること

優秀という字は、優しさに秀ると書きます。「優」は、憂いに寄り添う人と書きます。人の立場や気持ちを考えることができ、思いやりに秀でた人のことを、優秀というのではないでしょうか。リーダーが最も心得るべきことです。

20年後の自分と会社を イメージして働く

20年後の自分を想像したことがありますか？
20年後の会社をイメージしたことはありますか？
会社は順調に発展していると思いますか？
その会社を成長させるのは誰ですか？
20年後にあなたが、
働き甲斐をもって輝いているために、
「この会社は自分がつくっていくんだ」という
気概をもって働きたいものです。



あなたは どう生きて どう働きますか？

毎日の仕事に打ち込んで、
仲間と懸命に働いて、
そして楽しんで、
自分の能力をフルに使いきることから、
ほんとうの幸福感は
生まれてくるのではないかでしょうか？

- 1 働ける、それだけでありがたい
- 2 「年輪経営」
- 3 凡事継続の工夫
- 4 判断の基準は善か悪か
- 5 目的と手段をはき違えない
- 6 利益は社員の幸せのために使う
- 7 最高の幸せは忘己利他にあり
- 8 幸せに向かう進歩軸と、トレンド軸をいつも意識して
- 9 会社経営の基本は「ファンづくり」
- 10 ブランドとは社会からの尊敬度
- 11 会社のイメージを上げる
- 12 真の生産性向上は、モチベーションアップ
- 13 遠くをはかる経営を
- 14 どんな仕事でも天職だと信じる
- 15 可能性を次の世代へつなぐ
- 16 人件費は経営の目的です
- 17 利他の積み重ねが運を呼ぶ
- 18 一枚岩になるまで伝え続ける
- 19 人間として成長する社員の総和が会社の真の成長
- 20 改善とは快適さを追求していくこと
- 21 研究開発により、遠くをはかる種まきを
- 22 「三方よし」から将来も良い「四方よし」に
- 23 誰にもまさる仕事への情熱をもとう
24. 気づきの能力を養う意識のスポットライトの数
- 25 優秀とは優しさに秀でること
- 26 20年後の自分と会社をイメージして働く
- 27 あなたは、どう生きて、どう働きますか？